

## 「さん」の体験

## 資料1 (生徒の清書した発表原稿例)

「ネコ」とこと

この出来事が私に命の大切さを教えてくれました。

ある日、私は庭にいた家の庭で小さな子ネコが捨てられていたことに気が付きました。まだ目はあいていませんでした。手のひらにつぶらになら、小さかったですが、私はまだ小さいこのネコを家につれて帰りました。家に帰って家族に話すと、「どうしてのこしておられたのかな」と言つれました。が、飼つてもよいことになりました。

まず、ミルクを飲ませようと見て、皿にミルクを入れてあげました。けれども私がおいでなかつたで、上手く飲めませんでした。それで、私は「うびんで飲ませた」口飲んでくれました。その時はとてもうれしくてこの子ネコがとてもかわいく感じました。私は子ネコにミルクをあげるのが樂しかったので毎日早く起きるようになりました。この子ネコに「トーラ」という名前をつけてあげました。

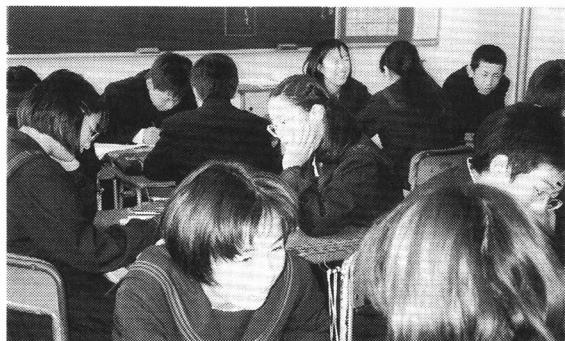
トーラは一日のほとんど寝て過ごしていましたけれど、ときどき「もうようがんがら」と上がろうとする姿はとてもかわいくて今でも心残ります。私はトーラが、かならず大きくなると育ってくれると信じて毎日毎日「うんぬー」と世話をしました。

トーラが私の家にきてから3週間が過ぎようとした頃です。私は「トーラが、とうに学年から歸ってきた」として真、先にトーラと一緒にいました。ねがいは寝ていろんだな」と思つたのです。それから私はトーラを手たわせようとしていました。その瞬間、私は耳聞が止まつたような気がしました。トーラの体は冷たくなっていました。首がだらん」と垂れ下がりました。私はミルクでどうしていいかわからなくなっていました。時間がたつにつれて私は「トーラが死んでしまったことが理解されてきました。それと同時に悲しみがあふれてきて涙が流れてしましました。涙はおとからあとがけ流れてきてなかなかとまりませんでした。どれくら泣いていたのでしょうか。気持ちが少し落ち着く付けてきたので私はお母さんの所へ会つた。トーラをつれていきました。お母さんは「トーラをハニカチでつぶしてくれました。それから家族と一緒に作つめてあげました。ハニカチにつまれたトーラは生きていませんでした。

期待通りの結果となった。

## ④ 表現力の向上について

全体構成と書き出し・結びを考えることは、生徒にとって簡単にできる作業ではなく、ずいぶん頭を悩ませていたものの真剣な取り組みが見られた。叙述（下書き）においては、事前に準備したA4サイズの用紙では足りず、追加分を印刷し直すという結果であり、2時間の中でかなり多くの字数を書き上げた。「書くことが苦手」と答えた生徒や日々の授業の中の観察で書く能力が低い生徒でも、意欲的に取り組んでいる様子が見られた。内容においては、教師側での分析結果であるが、生徒の自己評価と併せて考えてみても、以前より格段の進歩が見られ、取材が大きな効果をもたらした。



## ⑤ 表現学習に対しての意見の向上について

資料2の6から見ると、今までと比較して「書くことが好きになった」と答えた生徒80%、「話すことが好きになった」と答えた生徒63%は、大きな変容と捉えることができる。また、以前の調査で「表現学習が嫌いだ」と答えた生徒が4割程度いたのに対して、今回の「表現2」の学習では日に94%の生徒が意欲的に取り組んでいた。